

環境科学研究科

学生の確保 (人)	年次	定員	志願者		受験者		合格者	入学者	
	1年次	102 10 (102)	学内 65 (59)	学外 159 25 (115)	学内 63 (55)	学外 146 25 (104)	121 10 (113)	学内 51 (43)	学外 65 10 (65)
学生の進路 (人)	修了者 91 9 (107)	就職者 53 1 (64)	就職者の内訳			研修医 -	進学者 13 2 (19)	その他 25 6 (24)	
			企業 41 (53)	教員 2 (3)	公務員 10 (8)				

・()は前年度の数値を、 は外国人留学生を内数で示す。

1 環境科学研究科の活動

本研究科は「環境知を軸にした学の融合と実践」を目標とし、それを実現するために、「充実した実習とプロジェクト研究教育による戦略中心学習」を実行すべく努力している。

- (1) 教育目標：本研究科では、以下のような教育目標に沿った教育方針を推進することがこれまでに確認されている。自然科学から人文社会科学にわたる幅広い学際教育を行う。人間環境系の解析と地球環境の利用・保全に関する教育研究を行い、総合性と専門性を兼ね備えた問題解決型の人材を養成する。
- (2) 教育課程の見直し：(1)の基本方針を軸に、まず、「実習」の内容を充実するために、学生アンケート調査を実施し、その結果を踏まえて絶えず改善を行い、また、前年度から設けた「実践実習」の受け入れ先の開拓に努めている。第二に、従来の6分野+1広領域制を3領域+1広領域に再編し、学際性と実践的教育研究の深化をはかるべき体制を、平成14年度から実施した。第三に、社会人のブラッシュアップ教育に対応するための社会人特別選抜を制度化し、実施した。さらに、連携大学院構想を実施した。
- (3) 教育研究指導・教育方法の改善：広領域プロジェクトにも複数指導体制を導入し、また研究科全体の学習機器の充実をはかった。
- (4) 社会人の受け入れ：平成14年度の環境科学研究科の志願者数は224名で前年より50名増であった。内留学生は25名(合格者10名)で、志願者数は14名減であるが、合格者数は同じであった。第1回社会人特別選抜の志願者数は11名で、合格者は8名であった。なお、一般入試と社会人特別選抜による社会人の志願者総数は、20名で2名増、合格者は14名で前年度と同じであった。

2 教員の教育業績評価の状況

教員には、授業効果等についての自己点検評価を課し、その結果を有効に還元することを求めている。

3 自己評価と課題

- (1) 自己評価：外部評価と将来構想の策定、概算要求に関する議論などを通じて、研究科の理念、教育目標などについての教官の意識が明確となり、研究科全体で概ね良好な形で教育・運営がなされている。なお平成14年度修了生91名の進路は、職場復帰2名、公務員・教員12名、企業団体41名、大学院進学13名、その他自由業、非常勤講師、ボランティア活動、研究生など25名であった。
- (2) 主要な課題：環境問題の一層の多様化と環境科学に対する社会及び学生からの関心の高まり及びニーズの変化、修了者の進路の確保、大学間競争、若年人口の減少傾向等の状況下で有職者・社会人の開拓、研究科の理念・教育目標に沿った教育の維持、新しい情勢に対応した次世代につづる教育目標、教育課程、組織・制度を更に検討していく。